

徳島・上勝町 葉っぱビジネスの創生 知識情報社会の先駆け、知恵と工夫で限界集落脱皮

東京藝術大学美術学部建築科 講師 博士(工学) 河村 茂

1. 四国で一番小さな山間の町 人口が減少、産業が衰退

徳島市から車でおよそ1時間、ここに「葉っぱビジネス」で有名な上勝町がある。総面積 109.68 k m²のうち 85%を山林が占め、残る 15%も急傾斜地で耕地はわずか 1.9%、川岸を中心に 55 の集落が分散する。この地では、杉などの造林と斜面を利用したみかん栽培、それに等高線（標高 100~700m）に沿って棚田を開発するなどして暮らしてきた。人口は 1859 人（2013 年 5 月 1 日時点）と四国一小さな町で、人口の過疎化が進み半数が 65 歳以上のお年寄（高齢化率は 49.38%）で、冠婚葬祭など社会的共同生活の維持が困難な**限界集落**となっている。

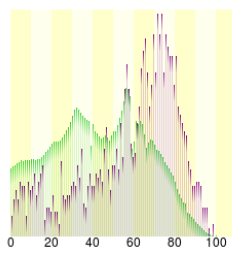
1980 年前後、この平穏な町を二度にわたり大寒波が押し寄せる。1976 年には杉の多くが枯れ、これに貿易摩擦解消として安い輸入木材が流入、町の林業は衰退する。1981 年には零下 13℃の異常寒波に襲われ、みかんが全滅、これにオレンジの輸入自由化も手伝い、農家はみかん栽培の意欲を失う。そんな上勝の地に 1979 年、町長に乞われ農業学校を出たばかりの横石知二が、農協の営農指導員（農業経営指導）として赴任する。横石は、この地に固有な産品を求め種々の野菜栽培に挑戦するが、決定的なものが出ず悶々とした日々を送る。



映画「人生いろどり」※



上勝町の位置



年齢別人口分布（2005年）



料理に添えられる妻もの

■紫色：上勝町 ■緑色：日本全国

2. 彩(いろどり=妻もの生産)事業を起業 感性を磨き、地域資源を活用

・社会ニーズ、地域特性を読み取る 事づくり(付加価値創造)、町民の属性

そんなある日、横石がふと顔を出した都会の寿司屋、隣り合う女性客の会話「この料理の葉っぱ(妻もの※)かわいいね」、「持って帰っちゃおうかな」にハツとする。「そうだ葉っぱなら上勝には沢山ある」。近代社会も成熟期を迎え人々の欲求も高度化、「付加価値創造」の時代といわれている。妻ものは料理に付加され、**楽しく食事を摂るための仕掛け・事(付加価値)**である。

上勝町は**高齢者**、とりわけ**女性**が多い、筋肉仕事はきついが葉っぱなら軽くて丁度よい。また、

「地方創生」支援プロジェクト



単純な繰返し仕事は年寄りに向いている。「これは上勝の地にあうかもしれない」と横石は思った。そう思うと、これまでただうとうしいだけの山が宝物に、葉っぱがお札に見えてきた。

※ この地の葉っぱビジネスは、2012年に吉行和子、中尾ミエ、富司純子等の主演で映画化される。

※2 妻ものとは、葉類（紅葉、柿、南天等）や花類（梅・桜桃等）、笹葉で作る器や箸置き、ユキノシタや葉わさびなど食用の山野草、プリムラや金魚草などの食用花、松葉や稲穂などで作った祝膳用の飾り物などのことである。

・葉っぱから妻ものへ 葉っぱに商品価値を吹き込む

こうして1987年、手探り状態で「彩事業」はスタートする。しかし、初年度の売上げは116万8930円と出だしからつまづく。そこで横石は考えた。そして「葉っぱと妻ものは同義ではない」ことに気づく。素材の「葉っぱ」を「妻もの」という商品にするには、色や形また大きさなど**品質の安定性**が求められる。さらに、葉の品目や出荷時期また数量などを、顧客の求めに応じ出荷する必要がある。

そこで横石はニーズにあった商品の開発に向け、約2年間料亭に通いつめる。そこで妻もの商品知識やビジネスノウハウを学び、**栽培技術の向上**など市場性を高めていった。また、消費者が欲しい商品を適時、適切に供給できる**生産体制を確立**するため、独自の情報インフラ「彩ネットワークシステム(生産技術や注文情報また市況など、ビジネスに必要な情報を町全体で共有)」を構築、料亭が求める微妙な色合いの葉っぱを選びすぐって採取すると、お手製の道具を使い大きさを整え、これを丁寧に梱包し出荷した。



葉っぱの仕分け 包装へ



トレーに整えられた葉っぱ



パソコンを操作するおばあちゃん

・情報ネットワークシステムの構築 集落相互をネットで結合、情報共有し競い合い

上勝町では当初、紙や電話・Faxを用い情報の受発信をしていたが、1992年に町の防災行政無線と家庭のファクシミリを結び、双方向で受発信できる同報ファクシミリ・システムを開発した。こうして市場から上勝町JAに入った注文を農家に一斉に送信、注文に応じられる農家から電話でJAにエントリーしてもらい、先着順に注文を受け付けられるようになった。

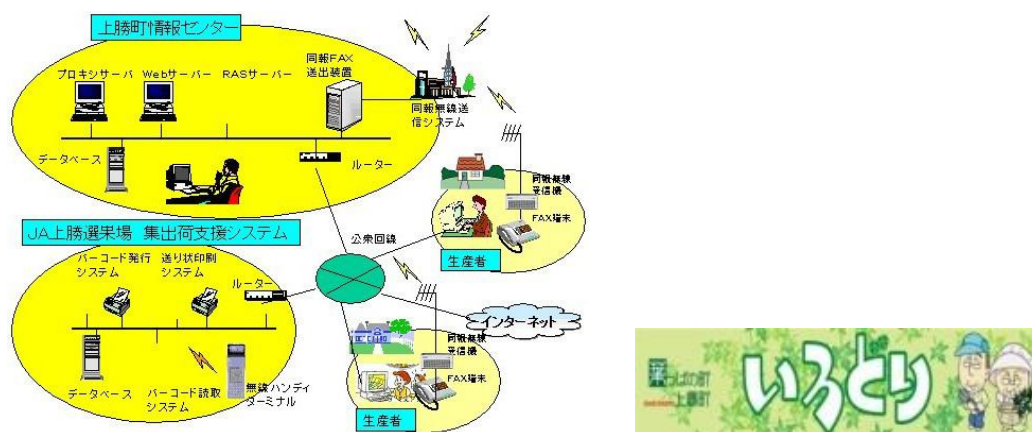
また、1999年には、パソコンを利用し集出荷の**バーコード管理システム**を構築、JAにエントリーした農家は、妻ものをケース詰め、ここに生産者と商品番号のバーコードを付し、JA上勝の選果場に持って行くと、選果場ではスタッフが無線ハンディターミナルで、バーコードを読み

「地方創生」支援プロジェクト



取り、出荷情報を「彩ネットワークシステム」に乗せる。こうして、妻ものは選果場から専用トラック「彩号」と航空便で、京阪神や首都圏の消費地市場に運ばれ、翌朝の競りにかけられる。競りが終わると入札価格が入り、各出荷者の売上が確定する。

このシステムは、山間部に散らばる55の集落の生産農家相互を結び、情報の共有と連携を可能にした。このシステム上には、(株)いろどりの提供する、販売動向の予測や過去の出荷数量、単価の比較表のほか、各生産農家の出荷実績や市場価格、月の売上金額の累計などを生産農家の順位付きで見ることができ、出荷戦略・生産計画を立てることができる。最近では、急な注文にも対応できるよう、携帯電話（スマホ又タブレット端末）を持ち歩くお年寄りも増えている。



・自然地形を活かす 長期安定供給

上勝では、こうして農家相互の競い合いを促し事業性を高めていった。こうした努力が実を結び「彩事業」の売上は1994年に初めて1億円を突破した。その後、生産農家の数が増えたり（現在194軒）、南米アンデス山脈に位置する世界遺産マチュピチュのように、農地の標高差100～700mを活かし、時期を違えて多種多様な妻ものを、長期間安定的に供給できる体制を整備したこともあり、現在、上勝の妻ものは市場シェアの70%を占め、320種類以上の商品を全国に送り出している。売上は今日2億6000万円ほどになった。おばあちゃんたちの中には、この妻もの生産で月に100万円以上も稼ぎ、「葉っぱ御殿」を建てたものもいるという。もちろん男達も圃場の整備やビニールハウスづくりなどに汗を流し、これを支えたことは言うまでもない。

3. 産業育成からまちづくりへ 医療・福祉費の抑制、大人に生き甲斐・子供に夢

・生涯現役 生きることの意義を問う

こうしておばあちゃん方は、気は張って仕事することでアドレナリンが放出され、「病気になる暇もない」という。お年寄りたちが元気になり医療費が低下、老人の寝たきり率も下がり、町全体が活性化してきている。おばあちゃん方にとって、この仕事は、「生きがい」そのものである。昨今、葉っぱビジネスがテレビで紹介されたり、映画にもなるなど世間の注目を集めるよう

「地方創生」支援プロジェクト



になると、人々のマインドも変わり、この地を「誇る」ようになった。葉っぱビジネスは、農業振興や地域活性化の範疇にとどまる事業ではない。町の人々をやる気にさせ、生きる喜びをもたらすとともに、子供や若者の将来に夢を与えている。

・地域にあったスマートタウンづくり 自治体経営活性化

葉っぱビジネスの効果は個人にとどまらない。町の医療・福祉にかかる**財政負担を抑制**、その一方で**税収を増やす**など自治体経営に多大な貢献をしている。また、葉っぱを求め人が山に入ることで、山の自然の維持管理にも目配せがいき、災害の抑制にも寄与している。そして町にとって何よりうれしいことは、都会に出た子供たちが町に戻ってきてくれることである。現在、**町民の1割ほどが移住者**である。このため町では住宅不足を補うため、新たな町営住宅の建設や小学校の住宅への改装を行っているが、今でも町営住宅に空きはないという。

山奥、小さな町、限界集落とくれば、近代化の論理ではマイナスイメージでしかない。しかし、上勝町ではこの状況を逆手にとり、情報通信と交通輸送のネットワークを活用し山奥のハンディ乗り越え、妻もの生産を起業、葉っぱ、お年寄り、女性など地域資源を活かす形で**知恵のまちづくりを展開**している。この地は、秋には日本有数のブナの原生林が紅や黄色のモミジに染まる。また、檜原の棚田は1999年に「日本の棚田百選」に、そして2010年には「国の重要な文化的景観」に認定された。この美しい山の自然と、**通信・輸送のネットワークインフラ**、そして**お年寄り**とを融合させた知恵のまちづくりは、スマートタウンそのものといえる。



初の福川町営住宅（木造）



ブナの林



檜原の棚田

参考資料

立木さとみ：いろいろ「おばあちゃんたちの葉っぱビジネス」, 立木写真館, 2006

国保祥子：株式会社いろいろ, 慶応ビジネススクール公式ケース教材, 2006

横石知二：「そうだ、葉っぱを売ろう!」過疎の町どん底からの再生, ソフトバンククリエイティブ, 2007

笠松和子・佐藤由美：「持続可能なまちは小さく美しい」上勝町の挑戦, 学芸出版社, 2008

ビーバル地域活性化総合研究所：葉っぱで2億円稼ぐおばあちゃんたち, 小学館, 2008

横石 知二：生涯現役社会のつくり方, ソフトバンク新書, 2009

愛媛大学法文学部：徳島県上勝町における地域活性化の取り組みについて, 地域創成研究年報第6号, 2011

鈴木俊博：いろいろ社会が日本を変える, ポプラ社, 2013

「地方創生」支援プロジェクト



掲載写真等

映画「人生いろどり」 <http://www.kamikatsu.jp/docs/2012092800015/>

上勝町の位置 <http://wikitravel.org/ja/>

年齢別人口分布（2005年） <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%8A%E5%8B%9D%E7%94%BA>

料理に添えられる妻もの <http://www.nikkei.co.jp/digitalcore/local/18/>

葉っぱの仕分け包装へ http://www.royal-tourist.co.jp/cat2_1332570681.html

トレーに整えられ運搬される葉っぱ <http://image.search.yahoo.co.jp/>

パソコンを操作するおばあちゃん <http://www.irodori.co.jp/>

情報ネットワークシステム <http://www.kaso-net.or.jp/it/kamikatu.htm>

初の福川町営住宅（木造） <http://www.kamikatsu.jp/>

ブナの木 <http://hureaikan.jugem.jp/>

檜原の棚田 <http://image.search.yahoo.co.jp/>

「地方創生」支援プロジェクト

